

CAMPUS NEWS

キャンパス
ニュース

第31代同志社大学学長

同志社大学学長の任期満了(2010年3月31日)に伴い、1月30日(土)開催の学
校法人同志社理事会において、八田英一經
済学部教授が第31代同志社大学学長に選
任された。任期は、2010年4月1日から
2013年3月31日までの3年間。



【学長の略歴】

八田 英一 はつた えいじ

1971年3月	同志社大学 経済学部卒業
1973年3月	同 大学院経済学研究科 修士課程修了
1974年4月	同 経済学部助手
1977年6月	カリフォルニア大学 (バークレー校) 大学院 経済学Ph.D.コース修了
1985年4月	同志社大学 経済学部教授
1996年4月	同 経済学部長
1998年4月	同志社大学学長、同志社理事
(現在)	

学位 Ph.D.
研究分野 産業組織論、計量経済学

スポーツ健康科学研究科& グローバル・スタディーズ 研究科開設

2010年4月、スポーツ健康科学研究
科とグローバル・スタディーズ研究科がス
タートした。

本学では2008年にスポーツ健康
科学部を設置し、総合応用科学であるス
ポーツ健康科学の体系的な教育研究を
行っているが、さらにスポーツ健康科学に
関する高度な専門知識と卓越した理論を
修得した専門家を養成するため、2010
年度からスポーツ健康科学研究科修士
課程を開設した。修士課程では、健康とス
ポーツ活動およびそれらを取り巻く社会
環境に関する諸問題を、多角的かつ科学
的な視点から捉え、新しい知見の獲得を
めざす。

一方、グローバル・スタディーズ研究科
は、既設のアメリカ研究科が蓄積してきた
教育研究を継承・発展させ、アメリカ研究、
現代アジア研究、グローバル社会研究の3
クラスターで構成されている。民族問題、
国際紛争、平和構築、経済格差、ジェンダー
など、国家や地域の枠組みを超えた諸問題
を抱える現代社会。単なる地域研究にと
どまらず、人類共通の諸問題や国境を越
えて探求すべき諸課題を、多角的な視点
から解明していく。

同志社大学 台湾フォーラムを開催

1月16日(土)、台湾台北市の圓山大飯
店で「同志社大学フォーラム in Taipei」を
開催した。このフォーラムは、広く本学を
知ってもらうことで台湾における本学の
プレゼンス向上を図り留学生確保につな
げると同時に、同志社大学台湾オフィス開
設や同志社校友会台湾支部60周年記念も
兼ねて実施された。

台湾の官公庁関係者、台湾の高校関係
者、協定校をはじめとする大学関係者、日
本語学校・日本語補習校関係者、留学希
望者、校友など138人の参加があった。
フォーラムの一環として実施した留学生
向けの入試相談会にも40人を超える方に
お越しいただき、本学の新しい留学生向け
プログラムへの期待の大きさに確かな手
ごたえを感じた。

フォーラムでは、八田学長の挨拶の他、
宇治郷社会学部教授による基調講演「同
志社大学と台湾からの留学生」、山内日本
語・日本文化教育センター所長による新
しい留学生向けプログラム」の紹介、黒木
副学長による「同志社大学の国際戦略」の
紹介を行った。

フォーラム後のレセプションでは、卒
業生を中心に「DOSHISHA COLLEGE
SONG」を大合唱するなど、楽しい懇談の
ひとときを持った。

(国際化推進室)

同志社キャンパスフェスタ

同志社大学の「今」を卒業生、在学生ご父母、高校生をはじめ広く一般の方々にご理解いただくことを願ひ、昨秋の10月3日(土)仙台、10月11日(日)東京、10月18日(日)名古屋、10月24日(土)岡山、11月8日(日)京都、11月15日(日)熊本の全国6会場で、同志社キャンパスフェスタを開催した。

当日は、学長挨拶で始まり、続いて京都会場では朝原宣治氏と西村彰氏(前陸上競技部監督)、それ以外の会場ではスポーツジャーナリストの中西哲生氏と本学教員によるトークセッションを行った。その他、各学部の教員が相談に応じるブースや、在学生ご父母向けにキャリアセンター所長による近年の就職動向に関する講演会、高校生や高校教員向けに入学生センタースタッフによる入試説明などを実施。また、学生支援センタースタッフが学生生活に関する相談に応じるブースも設けた。



会場ごとの参加者は概数で、仙台150人、東京200人、名古屋250人、岡山150人、京都900人、熊本140人と、多くの方々にご参加

いただいた。また、開催地の校友会には当地の高校へ参加の呼びかけを行っていたなど、多大なご協力をいただいた。

今年度も全国各地でキャンパスフェスタを開催予定。ぜひ足をお運びいただきたい。

(校友・父母課)

特定寄付奨学金募金協力者 ご芳名

経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生を援助するため、2004年4月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会各界に呼びかけています。

2010年1月末までに、卒業生、ご父母、一般の方々および教職員から以下のおりご協力をいただきました。

2009年3月～2010年1月の申込者	
	2009年3月～2010年1月の申込者
卒業生 ご父母 一般	73件
教職員	34件
合計	107件
申込件数	12,688,728円
申込額	2,280,000円
	10,408,728円

【ご芳名敬称略、順不同】

【卒業生、ご父母、一般】

3,000,000円	中井 幸子
2,000,000円	崑原 正治
900,000円	同志社生活協同組合
400,000円	崎山 和男
300,000円	株式会社バンネット・システム 同志社校友会 市川 稔晃

225,207円	同志社東京校友会
225,000円	森田 秀夫
200,000円	沢辺 義典
100,000円	松村 彰
90,000円	藤原 東
60,000円	同志社ESSS東京OB会
50,000円	三原 誠治
48,000円	長屋 勝元
30,000円	同志社45東京クラブ
	河村 忠紀
	米田 昇平
	塚村 康志
	川向 幹男
	越野 泰一
	天田 喜久
	山本 正宣
	石井 穎二郎
	今村 浩一
	同志社校友会栃木県支部
	茨木同志社クラブ
	富岡 努
	斎藤 俊信
	福本 光夫
	玉井 利宏
	兼古 志郎
	大井 茂
	松本 邦博
	廣澤 美智子
	渡辺 弘道
	山中 光太郎
	山村 倅一
	南道 卓一
	才田 淑仁
	豊田 俊一
	加茂 明男
	森 恒男
	竹田 純子
	早内 高士
	柴田 博昭
	倉田 誠子
	石井 正明
	野口 劭
	奈良 光浩
	櫃田 真由美

【ご芳名のみ(金額非掲載)】
上ヶ原 勲 田内 文枝 山田 純一 小牧 礼子
花園 堅一 藤原 喜久雄 佐藤 信夫
本田 肇 松岡 秀晋 河島 哲也
1,105,000円(匿名合計) 匿名12人

【教職員】

300,000円	三上 保孝
150,000円	工藤 和男
120,000円	黒木 保博
100,000円	圓月 勝博
55,000円	西川 真司
	植村 巧
	富田 安信
	今川 晃
	北 幸史

【ご芳名のみ(金額非掲載)】

奥田 みよ子 藤井 邦宏 新 茂之
高田 紀美 越川 弘英 林 克樹
戸田 裕之 岡市 徹 里内 仁美
718,000円(匿名合計) 匿名16人

*教職員については2013年度までの申込を受け付けていますが今回は2009年度寄付額(2009年4月～2010年3月)のみの金額を掲載しています。

当募金は継続的に行っていますので、引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

財務部資金課 TEL:075-251-13150

URL: hokin.doshisha.ed.jp

土曜日の事務室体制について

4月7日(水)から春学期の講義を開始します。土曜日の授業は例年どおり実施しますが、事務室は一部を除いて土曜日は閉室することになりました。閉室する事務室、開室する事務室については、大学HPをご覧ください。

新任教員紹介

授業科目を担当する専任教員を紹介します。
①所属(学科) ②職名 ③主な担当科目



樽井 康彦
(たるい やすひこ)
①社会(社会福祉)
②助教
③ソーシャルワーク演習Ⅱ



上田 眞士
(うえだ まさし)
①社会(産業関係)
②教授
③比較産業関係論(1)



入江 さやか
(いりえ さやか)
①文(国文)
②助教
③日本語学概論(1)



根岸 一美
(ねがし かずみ)
①文(美学芸術)
②教授
③音楽学概論Ⅰ



佐野 静代
(さの しずよ)
①文(文化史)
②准教授
③人文地理学(1)



堀井 優
(ほりい ゆたか)
①文(文化史)
②准教授
③西洋文化史(1)



勝又 悦子
(かつまた えつこ)
①神(神)
②助教
③ユダヤ学



毛利 亜樹
(もうり あき)
①法(政治)
②助教
③政治学入門



馬原 潤二
(まはら じゅんじ)
①法(政治)
②助教
③近代の政治思想



Stephen GREEN
(スティーブン グリーン)
①法(法律)
②准教授
③特殊講義



山根 崇邦
(やまね たかくに)
①法(法律)
②助教
③知的財産法概論



坂井 岳夫
(さかい たけお)
①法(法律)
②助教
③社会保障法



楊 奕
(よう い)
①社会(教育文化)
②准教授
③教育問題史



勝野 宏史
(かつの ひろふみ)
①社会(メディア)
②助教
③国際コミュニケーション論



妹尾 哲志
(せのお てつじ)
①政策(政策)
②講師
③アカデミック・スキルⅠ



杉田 菜穂
(すぎた なほ)
①政策(政策)
②講師
③アカデミック・スキルⅠ



林 敏彦
(はやし としひこ)
①政策(政策)
②特別客員教授
③企業政策論⑦
-日本経済の産業的課題



内田 康雄
(うちだ やすお)
①政策(政策)
②教授
③企業政策論⑥
-保健医療政策マネジメント



熊野 正樹
(くまの まさき)
①商(商)
②講師
③アカデミック・リテラシーⅠ



石川 実令
(いしかわ みれい)
①商(商)
②講師
③アカデミック・リテラシーⅠ



古賀 智敏
(こが ちとし)
①商(商)
②特別客員教授
③金融商品会計論



木田 重雄
(きだ しげお)
①理工(機械システム工)
②教授
③力学Ⅰ



高橋 康人
(たかはし やすひと)
①理工(電気工)
②助教
③電気工学実験Ⅰ



安田 晶子
(やすだ しょうこ)
①文化情報(文化情報)
②助教
③人間と感性



西倉 実季
(にしくら みき)
①文化情報(文化情報)
②助教
③人間と社会



大田 靖
(おおた やすし)
①文化情報(文化情報)
②助教
③確率・統計



深川 大路
(ふかかわ だいち)
①文化情報(文化情報)
②助教
③情報基礎論



大森 崇
(おおもり たかし)
①文化情報(文化情報)
②准教授
③定性的データ分析



内藤 正典
(ないとう まさのり)
①グローバル・スタディーズ
(グローバル・スタディーズ)
②教授
③グローバル社会と移民政策Ⅰ



峯 陽一
(みね よういち)
①グローバル・スタディーズ
(グローバル・スタディーズ)
②教授
③国際・地域の安全保障Ⅰ



加藤 千洋
(かとう ちひろ)
①グローバル・スタディーズ
(グローバル・スタディーズ)
②教授
③中国の社会と文化Ⅰ



及川 昌典
(おいかわ まさのり)
①心理(心理)
②助教
③実験社会心理学



竹原 卓真
(たけはら たくま)
①心理(心理)
②准教授
③認知心理学



武藤 崇
(むとう たかし)
①心理(心理)
②教授
③行動分析学



福岡 義之
(ふくおか よしゆき)
①スポーツ健康科(スポーツ健康科)
②教授
③生理学



伊勢 晃
(いせ あきら)
①言語文化教育研究センター
②准教授
③フランス語インテシヴⅠ



近藤 まり
(こんどう まり)
①ビジネス(ビジネス)
②教授
③経営戦略とマネジメント



佐伯 祐二
(さえき ゆうじ)
①司法(法務)
②教授
③公法総合演習



小山田 英治
(おやまだ えいじ)
①グローバル・スタディーズ
(グローバル・スタディーズ)
②准教授
③東南アジアの社会と政治Ⅰ



菊池 恵介
(きくち けいすけ)
①グローバル・スタディーズ
(グローバル・スタディーズ)
②准教授
③越境文化論



太田 修
(おた おさむ)
①グローバル・スタディーズ
(グローバル・スタディーズ)
②教授
③朝鮮半島の社会と文化Ⅰ



中西 久枝
(なかにし ひさえ)
①グローバル・スタディーズ
(グローバル・スタディーズ)
②教授
③グローバル社会と開発政策Ⅰ

本学教員の執筆図書を紹介 図書館調べ(価格は税別)

コンテンツ産業論
河島伸子 著 ミネルヴァ書房 2,800円

古典から読み解く社会思想史
稲井誠 他 執筆 ミネルヴァ書房 3,000円

「女装と男装」の文化史
佐伯順子 著 講談社 1,700円

授業評価・市場調査のためのアンケート調査・分析ができる本
宿久洋 他 著 秀和システム 1,800円

数理神学を学ぶ人のために
落合仁司 著 世界図書社 1,600円

政治概念の歴史的展開
富沢克 他 執筆 晃洋書房 2,900円

宝塚歌劇団スタディーズ
植木朝子 他 著 戎光祥出版 2,500円

テキスト 国際会計基準「第4版」
桜井貴憲 他 執筆 白桃書房 3,300円

現代流通事典「第2版」
鎌谷薫 他 執筆 白桃書房 3,000円

学習コンメンタール 刑法
奥村正雄・十河太朗 他 執筆 日本評論社 2,800円

メディア・アカウンタビリティと公表行為の自由
渡辺武彦 訳 論創社 3,800円

朝鮮半島のこぼれと社会
板垣竜太・福岡正章・洪公徳・三井崇・高塚彩 他 執筆
明石書店 1,500円

労働市場・労使関係・労働法
石田光男 他 編著 三井書房 他 執筆 明石書店 4,200円

ライフスキル教育
横山藤彦 他 編著 新川達郎・真山達志 他 執筆
昭和堂 2,300円

国際政治学をつかむ
村田寛嗣 他 著 有斐閣 2,200円

現代アメリカ外交の変容
村田寛嗣 著 有斐閣 2,400円

ヨーロッパ・ロシア・アメリカのディアスポラ
山田史郎 他 執筆 明石書店 5,000円

スポーツ・ヘルスツーリズム
一宮浩彰 他 著 大修館書店 2,000円

経済からの脱出
津村宏臣 他 著 春風社 2,300円

貧困を救うのは、社会保障改革か、ベーシック・インカムか
橋本俊哉・山登亮 著 人文書院 2,000円

都市社会計画の思想と展開
新川達郎 他 執筆 東信堂 2,300円

アメリカンスクール教育論考
川嶋四郎 著 弘文堂 8,000円

働くことの意味
橋本俊哉 編著 ミネルヴァ書房 3,500円

入門刑法法「第4版」
三井誠・瀧川晃 他 編 有斐閣 2,400円

近代医学の光と影
服部伸 著 山川出版社 7,200円

永井荷風・ジャンルの彩り
真鍋正宏 著 世界思想社 2,600円

研究の行方
津村宏臣 他 執筆 同成社 5,000円

梁塵秘抄の世界
植木朝子 著 倉川学舎出版 1,500円

労働判例解説集第1巻・第2巻
土田道夫 他 執筆 日本評論社 3,800円

計量国語学事典
石井久雄・森田村正勝 他 執筆 朝倉書店 12,000円

変わりゆく人と民法
田井義隆 他 執筆 有信堂高文社 7,000円

文学研究における継承と断絶
田中功徳 他 執筆 和泉書院 1,000円

企業と労働
川口章 他 執筆 東京大学出版会 4,200円

イギリス詩人伝
岡月勝博 他 訳 筑摩書房 6,800円

原典イタリヤ・ルネサンス人文主義
石坂尚武 他 訳 名古屋大学出版会 15,000円

家族を超える社会学
岡野八代 他 著 新曜社 2,200円



Dale John WARD
(デール ジョン ウォード)
①言語文化教育研究センター
②助教
③コミュニケーション英語



金 亨貞
(きむ ひよんじょん)
①言語文化教育研究センター
②助教
③ハングル会話上級1



宮地 隆廣
(みやち たかひろ)
①言語文化教育研究センター
②助教
③スペイン語応用1



竹島 奈歩
(たけしま なお)
①日本語-日本文化教育センター
②助教
③日本語1(総合1VII)



石田 裕子
(いしだ ひろこ)
①日本語-日本文化教育センター
②助教
③日本語1(文章表現VII)

退職教員 2010年3月31日付で、次の先生方が退職されました。

- 神学部 森孝一 教授
- 神学部 手島 勲矢 教授
- 文学部 今関 恒夫 教授
- 文学部 武藤直 教授
- 文学部 橋本 和佳 講師
- 社会学部 Philip J. CUNNINGHAM 教授
- 社会学部 金子 給里乃 講師
- 社会学部 中村 一美 教授
- 経済学部 光澤 滋朗 教授
- 商学部 藤川 健 講師
- 商学部 長谷川 千春 講師
- 商学部 田村 正紀 特別客員教授
- 商学部 岡部 孝好 特別客員教授
- 政策学部 平松 英哉 講師
- 政策学部 式 王美子 講師
- 文化情報学部 高橋 美都 准教授
- 文化情報学部 菅野 道夫 特別客員教授
- 理工学部 堀内 龍太郎 教授
- 理工学部 横山 直人 助教

- 理工学部実験実習センター 藤井 繁信 実験講師
- 理工学部実験実習センター 小野 雅章 実験講師
- 司法研究科 藤倉 皓一郎 特別客員教授
- 司法研究科 村上 敬一 特別客員教授
- 言語文化教育研究センター 馬場 宇彦江 教授
- 言語文化教育研究センター 鈴木 潔 教授
- 言語文化教育研究センター 三ツ井 崇 准教授
- 言語文化教育研究センター John W. JONES 助教
- 言語文化教育研究センター Ian DAVEY 講師

マンガで読む 新島襄英語版 刊行



『The Manga Story of Jo Nijima ~ A Quest for Freedom』を発行しました。

作画：能田茂氏、シナリオ：和順高雄氏、監修：本井康博神学部教授、英語訳：斉藤延喜文学部教授、デイヴィッド・チャンドラー文学部准教授が担当しました。

問い合わせ先 広報課
TEL：075-251-3120

『大人の京都修学旅行 京の常識事始』刊行



同志社大学と(株)JTB西日本の産学連携により実施している「京都観学研究会」が、「楽洛キャンパス」の講座記録をもとに編集しました。

問い合わせ先
(株)同志社エンタープライズ
TEL：075-251-3049

『TEAM DOSHISHA 2009』同志社三昧』刊行



同志社を愛する卒業生有志が、母校そして同志社ファミリーを応援する本を編集制作しました。

問い合わせ先
(株)同志社エンタープライズ
TEL：075-251-3049

My Experiences as a study abroad student at Doshisha

I came to Doshisha University through the Associated Kyoto Program (AKP). An AKP representative recommended the program to me through my home university, Amherst College, where the founder of Doshisha (Joe Neesima) graduated in 1870.

I have not taken classes at Doshisha. My classes are at AKP on Doshisha Imadegawa campus. I am taking Japanese language and reading comprehension classes. Also, I am taking one class on Japanese architecture and another class on the Japanese family structure. In the fall, I took an off campus traditional Japanese dance class that specialized in Sakura dance. This semester, I plan on taking flower arranging lessons.

I try to visit as many temples and shrines and other cultural sites in the Kansai area as often as I can.

My advice to Doshisha students is to be more receptive to foreign students. I find that most Japanese students are very shy and do not approach foreign students as often as they may want to. I know that I have welcomed random conversation from a variety of Doshisha students and have, in this manner, made good friends. These students have also offered me insight into Japanese culture and into college student's lifestyles. I believe that if students could overcome their shyness of foreigners, I think it would be very beneficial to them.

Crystal Edwards

私の同志社留学経験

私はAKP留学生として同志社大学にやってきました。同志社の創始者である新島襄先生が1870年に卒業した私の母校アーモスト大学はAKP加盟校のひとつで、大学のAKP担当教授からこのプログラムを勧められました。

同志社大学の授業を直接受けたことはなく、今出川キャンパスで行われているAKP同志社留学生センターの授業を受けています。クラスは一般日本語と読解、それに加えて、英語で日本建築と日本の家族構造を受講しています。同志社の外では、昨秋、日本舞踊を習って「桜」を踊りました。今期は生け花のレッスンを受ける予定です。私はまた、関西にあるお寺や神社、その他の文化遺産をできるだけたくさん訪れるようにしています。

同志社大学の学生たちには、留学生に対してもっとオープンに接することを提案します。ほとんどの日本の学生はとてもシャイなので留学生に近づきたいと思っていてもなかなか近づいて来ないのだと思います。私はたくさんの方の同志社の学生と積極的に話すようにしたことで良い友人ができましたし、彼らを通して日本文化や大学生のライフスタイルについてより深く知ることができました。もし日本の大学生が外国人留学生に対して恥ずかしがらずに接することができれば、きっととても有意義な経験になるだろうと思います。

クリスタル・エドワーズ

2009.9 ~ 2010.5 AKP同志社留学生センターに在学



小説家

真山仁さんに聞く

今回の同志社人

真山仁さん

【1987年法学部政治学科卒業】

1962年生まれ、大阪府出身。87年中部読売新聞社(後の読売新聞中部支社)入社。89年11月に退社し、フリーライターに。04年「ハゲタカ」でデビュー。著作に「パイアウト」(「ハゲタカ2」)「虚像の砦」(「マagma」)「ベイジン」(「レッドゾーン」)「プライド」がある。

西 ● 真山さんが小説家を志望されたのはいつ頃からなのでしょう。

真山 ● 中学生くらいから外国のミステリーを読み始めて、読んでいるとだんだん自分でも書きたくなる。もしかしたらそれが自分の一番やりたいことなのじゃないかと思いはじめたのが高校時代でした。好きな作家の経歴を調べると、多くの作家が記者からのスタートだった。それで、まず新聞記者として修業し、それから小説家をめざそうと思いい、大学も新聞社に就職しているOBが多かった同志社を選んだのです。

西 ● では新聞記者から作家に、というのは予定通りだったのですか。

真山 ● 記者を10年やって小説家になるのがプランだったのですが、2年半で新聞社を辞めてフリーのライターになり、結局、小説家になるのに13年かかりました。

西 ● 真山さんは着眼点や獨創性がとてもすばらしいと思うのですが、そういう力は新聞記者のときに培われたのでしょうか。

真山 ● だといいんですけど(笑)。新聞記者は獨創性があるって常に違うところに目を向けているかという、求められる資質としてはすごく大事なことです。

日々の仕事の中では忘れがちです。膨大なニュースの処理に追われるうえに、自身の記者としてのスキルも未熟です。じっくりと考える余裕もなく、ただ、「何か違う」という焦りだけが募っていました。では、西さんがおたずねになった力をどこで身に付けたのかというと、性格的な部分もあると思います。子どもの頃から天の邪鬼(てんまじやく)で、みんなが右というとき、なんで右なんだろうと疑問に思っていました。そのような大勢の人と異なる意見や物の見方が、時にはベターであることもあります。その結果、他人と異なる考え方を持つのは大切なことではないかと思いはじめたのです。やがて、このような考え方を習慣つけて磨くうちに、小説家になれるのかなとぼんやり思うようになりました。新聞記者をめざしたのも、社会を見る「目」が養えると思ったからです。しかし現実には想像以上に厳しかったですね。会社というものはある見方を押しつけようとする場合があります。それに馴染んでしまうのが怖くて、そろそろ潮時だと思いい、2年半で辞めたのです。

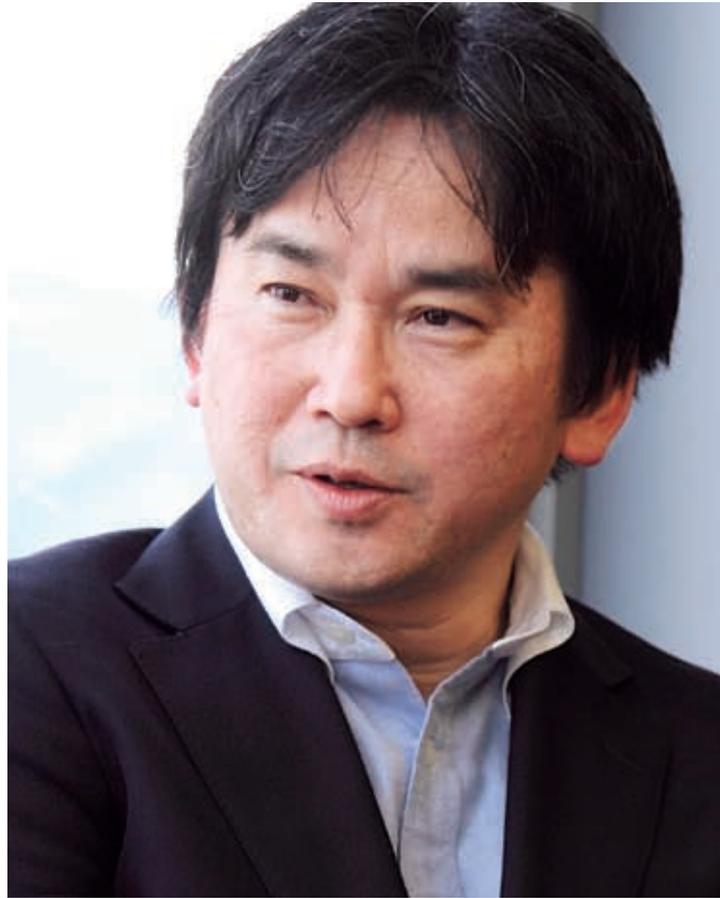
西 ● 真山さんが最も影響を受けた作家は誰ですか。

真山 ● 1人は、陰謀小説で知られるフレデリック・フォアサイスです。『第四の核』という作品を通じて、当時の労働党が政権を取ればイギリスはどうなるかわからない、本当に労働党が政権を取っていいのかわからない問題提起しました。しかもスリラー小説として抜群に面白かった。この小説は社会的に大きな影響を与え、結局、保守党が選挙

インタビュー

西祐一朗さん

【商学部商学科2年次生】



に勝った。1人の着眼点と疑問が小説になり、それを多くの人が手にすることで社会が変わっていく。小説には社会状況をがらりと変える力があるというのを、この作品から教えられたのです。

西 ● 自分も将来は小説を書いてみたいと思っているのですが、実際に書こうとしたら何から書いていいのかわからない。具体的に小説を書くときのポイント、大事なことは何なのでしょう。

真山 ● 端的に言うとうと、まずは書き終わることです。小説家志望の人は、書いているのだけれど書き終わらないのが悩みだとよく言います。書き始めたものの、結局どこかで書けなくなってしまう。小説家になるための第一歩は、書き始めたものを最後まで書き終えることではないかと、私は思います。それをファーストステップに書き続

けることですね。

西 ● 真山さんは企業買収や環境問題、メディアなどについて書かれているのですが、なぜそういうふうな幅広い分野の作品を書くことができるのですか。

真山 ● 私の小説は全部ゼロから取材して書いています。デビュー作の『ハゲタカ』でも、取材先がどこもない状態から、少しずつ人脈を広げて取材先を見つけ、書いてきました。小説を書くまでの流れを、私は空のコップにたとえて説明することが多いんです。空のコップがひとつあって、そこに水をどんどん注ぐと、いつか水は溢れてしまいます。小説を書くための取材は、それと同じことだと思っています。取材をした

タイミングだと思っています。どうせ一から勉強するのですから、新しいものにどんどん挑戦したいじゃないですか。記者から始めて、その後フリーのライターをずっとやっていましたから、自分の得手不得手に関係なく、さまざまなジャンルで取材するのに抵抗がないのだと思います。

西 ● とはいってもベースがない中でスタートは、普通は難しいのではないですか。
真山 ● それはフリーライターを10年余り続けてきたおかげだと思います。関西のライターの場合、とにかくいろいろな注文がくる。できないということは生活ができないということなので、苦手を分野だからといって拒否しない。知らない、見たことがない、わからないとは絶対に言わない。資料を読むとか、知らなければ知っている人を探して聞けば済む話です。その経験が今になつてとても生きています。現在でも、取材しているとき、「うちみたいな業界が小説になるのですか」とよく言われます。『マ

グマ』で書いた地熱発電なんて、「こんな社会が見向きもしないようなものはやめた方がいい」と何度も言われました。でも、だからやりがいもあるし、小説の舞台にもなり得るのです。関係者にとってはあまりに日常的で魅力に映らないものでも、第三者にはとても素晴らしい宝に見えるものがある。私はそういうものを掘り起こしていきたいと思っています。

西 ● 小説家として世に出るために、どんな努力をされてきたのでしょうか。
真山 ● とにかく書き続けてきました。高校2年のときから書いているので、もう30年書き続けていることになりました。書かなかったのは新聞社時代くらいですね。それ以外はずっと、小説を書いて投稿していました。高校時代は推理小説で、大学時代は社会派ミステリー。そして書くためには、何より読むことが大事なのです。だからミステリーだけで2000冊くらい読んでいます。読書量が増えれば増えるだけ、自分の中に引き出しが増えていくのです。こういう場面ではこういうシーンを作るとか、いかにも偶然のようなことがこういうふうにするとうまく偶然に見えないとか、たくさん読んでいると積み上がっていく。小説家になりたいなら、まず小説を読む。私は小説を執筆しているときでも台間に読んでいます。だから好きな書き手がいるというのは、すごく大事なことだと思います。そこに近づきたいと努力しますから。

西 ● 小説のための取材というのはどうやってやるものなのですか。
真山 ● 最初のつかかりは、人を通しての紹介ですね。キーパーソンを見つけることが第一歩。取材して小説を書くというスタイルである私が一番大切にしているのは、聞いた話をそのまま小説にはしないという事です。その人しか知らない話は書けない。本になった瞬間に誰が話したかわかってしまいますから。知っているけれどもその人の立場では公には話せない、でも社会には、問題の本質を伝えたい。それをすくいとって、小説という形に加工して伝えるのが、私のひとつの役割だと思っています。

INTERVIEWER

西祐一朗さん

商学部2年次生

熊本県出身。公認会計士の資格取得をめざし、専門学校にも通いながら勉強中。哲学、文学、ビジネスなどさまざまな分野の本を読み、将来は会計士になって活躍することと同時に、自分でも経済小説を書いてみたいという。

会計士と小説家の両立を夢に

小説を書きたいという思いはずっと持っているのですが、まず会計士になって人と違う視点でいろんな物事を見ていきたい。会計士で小説を書く人はあまりいないと思いますし、会計士だからこそのわかることもあるかもしれないので、両立していければと思います。そのためにも、人との交流やいろいろな体験を積み重ねていくことが大事。真山さんも言われていたように、同志社大学で何ができるかというのを考えないと、漫然と4年間が過ぎていく。きちんと目的意識を持ってこれからの2年間を過ごしていきたいと思っています。

西●真山さんの小説のファンとして、とても貴重なお話を伺うことができました。あと2年間、僕も同志社大学の学生としての意識をしっかりと持って学生生活を送っていきたいと思います。ありがとうございます。

サイン色紙 プレゼント

ご希望の方は、ハガキかEmailで、住所、氏名、学部(卒業生は出身学部と卒業年)、One Purposeの感想をご記入のうえ、5月31日(消印有効)までに広報課へご応募ください。

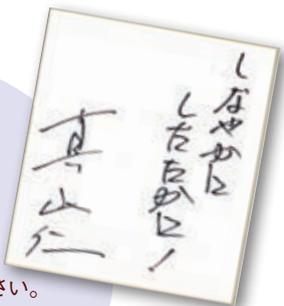
真山さんの色紙希望と明記のこと。

抽選で4名の方にプレゼントします。

当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。

※広報課の連絡先は裏表紙に記載。

※収集した個人情報は、当選者への送付ならびにアンケート内容の分析にのみ使用します。



す。まれにノンフィクションの執筆を依頼されることもありますが、基本的にはお断りしています。もしノンフィクションを書く場合は、「ノンフィクションですから聞いたことは全部書きます」と了解を得てから取材しないとイケませんね。

西●対象をここだと決めて取材されるのですか。

真山●たとえば環境やエネルギー問題を取り上げたいと思ったとき、いろいろな知り合いに「エネルギー問題について知っている人はいませんか」と聞く。たくさんの人に話を聞いて、先ほど言ったような空のコップの中にどれだけ情報が入るかによって判断します。逆に言うと、そういう人を見つからないと書けない。

てしまう可能性があります。就職活動が早期化して学生も焦っているのですが、そういう学生にアドバイスをいただけませんか。

真山●就職を「目的」にしてはいけないと思っています。私は小説家になろうと思っていたから、その手段として新聞記者になって修行しようと思った。小説家になろうと思ったのは、社会の疑問を伝えたいから。つまり、いつも職業は目的ではなく、そこにいくためのステージなのです。どうして自分はその就職するのかということ、をまず考える。何になりたいかということですね。もうひとつは、会社を選んでもらうのではなく、自分たちが選ぶくらいの気持ちを持つこと。就職はあくまでステップのひとつだと思えるくらいの余裕を持つてほしい。

西●卒業生として今の学生に伝えたいことは。

真山●同志社大学は、常識を疑う、価値観を疑う、という良い意味でのこだわりを許容してくれる大学です。その意味で本当に自由でした。でも、だからこそ意志を持って動かなければ、無為な4年間を過ごすこととなります。自分がちゃんとここに立っているという意識を持たないと流されていきます。この大学にいることを意識づけることが、社会へ出る第一歩としてとても大事なことだと思います。



夢を叶えるために、将来像を定めて 今何をすべきかを考える。

私は現在、環境省地球環境局で、気候変動問題に関する国際交渉の運営を手がけています。COP15などの国際会議において日本代表として交渉にあたったり、国際会議の議長として全体の進捗状況をコントロールする立場を務めることもあります。今は環境省で仕事をしていますが、公務員試験に合格して国家公務員になったわけではありません。法学部を卒業して、同志社新島スカラーでアーモスト大学へ留学。その後、ジョンズホプキンス大学大学院で2年間学び、目標だった国際連合をはじめ、国際舞台の第一線で仕事を始めたのが、私のキャリアのスタートでした。

将来は国連で仕事をしたい。そう思うようになったのは同志社香里高校2年のときです。ちょうどその頃、同志社大学法学部からアーモスト大学に進み、アメリカの大学院を経て国連に入った先輩のことを知り、その時点で以後の進むべきプランを立てました。国連で働くには語学を習得しておくなくてははいけません。アーモスト大学へ留学するには大学で常に良い成績を修めておかななくてははいけません。大学時代は国際機関で働くことに焦点を当て、キャリア設計をし

ながら授業を履修していきましました。あわせて、京都国際会館で行われていた国際会議の運営のアシスタントをして、英語の同時通訳の勉強もしていましたね。ただ、4年次生の頃、アーモスト大学留学に少し迷いも生じました。大学院への留学ではなかったのですが、同志社大学を卒業してさらに学部で2年間通うことに意味があるのかと考えたのです。しかし、今振り返ってみると、その2年間は回り道ではなく近道だったと思います。アーモスト大学で膨大な量の課題をこなし、英語を読む、書く、話すという力を徹底的に鍛えられました。そこで得た経験があるからこそ、さまざまな国籍の人と共に議論する、交渉することになっても、何の問題もなく渡り合える。そして、留学も含めたそもそもその出発点は同志社にあったと思います。今、国際的に高く評価してもらっている講演や交渉の仕事の基礎になる素地は、同志社大学で受けたいパブリックスピーチやディベートの授業で身に付けることができたと感じるからです。今の学生にアドバイスするのなら、10年

後、20年後どんな場所でどんなオフィスでどんな肩書きでどういう仕事をしてどれだけ年収を得ているか、できるだけ具体的に将来の姿を想像してほしい。そのために今の自分に何ができるかを考えることが大切です。そして、将来自分が得たい年収の5%を自己成長のために投資してほしいのです。将来に向けての具体的なビジョンがあれば、バズルを完成させるのに何が足りないかが見えてきます。今埋められるピースもあれば、もう少し経験を積んでからでないかと埋められないピースもあるでしょう。そうして空白を埋めながらバズルを完成させていく。その努力を怠らなければ夢はきつと叶うはずですよ。

同志社大学とアーモスト大学で政治学を学び、ジョンズホプキンス大学国際高等戦略研究院で国際経済学、紛争解決、環境政策を研究し、国際学修士号を取得。英語の他、フランス語にも堪能。国連で気候変動枠組条約事務局や国際経済社会問題担当局などに勤務した他、世界銀行、国際通貨基金を経て、2005年から現職。国際会議において最年少で主席交渉官を務めた経験を持つなど、世界を舞台に活躍中。現職は今年11月までの予定。環境、安全保障問題の専門家として多くの国際機関で経験を積んできたが、今後については「場所はどこでもいい。自分を必要としてくれるところであればどこへも行きます」と常に意欲的だ。

島田 久仁彦さん

【1998年法学部政治学科卒業】

環境省地球環境局 国際調整官

同志社大学とアーモスト大学で政治学を学び、ジョンズホプキンス大学国際高等戦略研究院で国際経済学、紛争解決、環境政策を研究し、国際学修士号を取得。英語の他、フランス語にも堪能。国連で気候変動枠組条約事務局や国際経済社会問題担当局などに勤務した他、世界銀行、国際通貨基金を経て、2005年から現職。国際会議において最年少で主席交渉官を務めた経験を持つなど、世界を舞台に活躍中。現職は今年11月までの予定。環境、安全保障問題の専門家として多くの国際機関で経験を積んできたが、今後については「場所はどこでもいい。自分を必要としてくれるところであればどこへも行きます」と常に意欲的だ。

先入観を持たずに相手の立場にたって 向き合うことから始まる

放送局の報道記者になりたいと思ったのは、高校2年のときに起こった阪神大震災がきっかけでした。当時私は京都に住んでいたのですが、テレビからいろいろな映像や情報がタイムリーに入ってくる。ニュースはこうやって伝わっていくんだというのを、初めて実感したのがそのときだったのです。それは私にとって本当に衝撃的な出来事でした。

入社3年目から報道局に配属され、記者としての初仕事は、神戸の長田区で「ぼっかけカレー」の話題を取材することでした。自分で取材に行って、インタビューして、原稿を書いて、編集して、2、3分ほどのニュースにまとめる。念願の記者職でしたが、話を引き出すことの難しさを痛感しました。夕方、ニュースの間に合わせるのに、ぎりぎりまで取材をして、大急ぎで編集したという苦い思い出があります。

記者という仕事は毎日が新しい出来事との出会いですから、失敗したことの方が多いかも知れません。喜びは、小さなことでも自分が取り上げたことで社会が改善の方向へ向かったり、取材した人に「放送してもらって良かった」と言っていただけのこと

ですが、もちろんうまくいくケースばかりではありません。テレビは映像がありまからダイレクトに印象が伝わる。企画を考えぬいて取材対象者をようやく見つけても、「テレビは嫌だ」と断られることが少なくありません。また、こちらの放送意図とお会いした方の考えがすれ違ったり、抗議を受けることもあり得ます。自分が取材したことの意味は何だったのかと悩むことも多いのです。人と向き合う仕事ですから、まずは先入観を持たずにその人の立場で話を聞くこと。人から信頼されるのが大事ですが、こちらが良い番組を作る気構えがあるのかどうかも試されている。日々その繰り返しです。それが大変であり、また魅力でもあるのだと思います。

3年目の秋に京都支局に入り、その後大阪府警、経済部を経て今は大阪市役所を担当しています。記者生活も8年目になり、今後は自分自身のテーマを持って企画取材やドキュメンタリー制作を手がけられる記者をめざさないと

いけません。今は生活保護の問題、それに関連して貧困問題をテーマに取材をしているのですが、その問題は今後も継続して追いかけていきたいと思っています。

報道記者を志望する方にアドバイスするとすれば、人と会うことが仕事のほとんどを占めていますから、コミュニケーション能力が非常に重要です。学生時代にできるだけたくさんの方と会って話を聞くことが大切だと思います。時間を自分のためだけに使えるのは大学生のときくらいですから、時間をもっと有効に活用すれば良かったと、私自身の自戒も込めて思いますね。

米澤 飛鳥さん

【2000年文学部文化学科文化史学専攻卒業】

株式会社毎日放送 報道局ニュースセンター 記者

高校時代に放送局に入りたいと思い始めたが「歴史が好きだから」と文化史学専攻を選択。西洋史を専攻し、主に中世の北歐における伝承について研究した。就職活動時はマスコミスクールに通うことはなく、特別な対策はしなかったという。「ただ、図書館でたくさん本や新聞を読みましたし、大学の勉強にもしっかり取り組んだ方だと思います」。

昨年11月、大阪市立大学のあるJR杉本町駅の駅舎が古く、改札口が大学と反対側にひとつしかないのをニュースで取り上げたことがきっかけとなり、新しい改札口設置の方向へ進み始めた。「ほんの小さなことでも、自分の報道をきっかけに喜ぶ人が出てくれればうれしい」と語る。

- 4月8日(木)14:00～、9日(金)9:00～
関西六大学準硬式野球春季リーグ戦
場所:豊中ローズ球場 対戦校:神戸大学 入場無料
 - 4月15日(木)9:00～、16日(金)14:00～
関西六大学準硬式野球春季リーグ戦
場所:皇子山球場 対戦校:関西学院大学 入場無料
 - 4月22日(木)11:30～、23日(金)9:00～
関西六大学準硬式野球春季リーグ戦
場所:豊中ローズ球場 対戦校:立命館大学 入場無料
- 【硬式野球部】
- 4月3日(土) 関西学生野球六大学春季リーグ戦
場所:対戦校:未定 入場料:1200円
- 【ラグビー部】
- 5月5日(水) ラグビー祭
場所:宝が池球技場 対戦校:慶應義塾大学、京都大学
 - 5月30日(日) 京都ラグビー祭
場所:西京極陸上競技場兼球技場 対戦校:立命館大学

学生保健部会 献血・アルコールパッチテスト

- 【献血】今出川校地 4月21日(水)10:00～16:00 (明德館ラウンジ前)
京田辺校地 4月22日(木)10:00～16:00 (ラーネット記念図書館裏)
- 【アルコールパッチテスト】※定員に達し次第終了。
今出川校地 4月3日(土)、5日(月)9:00～16:00 (尋真館1階ラウンジ)
京田辺校地 4月2日(金)、3日(土)、5日(月)、6日(火)9:00～16:00
(知真館3号館入口)
- 【問い合わせ先】
今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3281
京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7435

函館キャンプ参加者募集

- 新島襄が1864年に脱国した地、北海道函館を5泊6日で訪れます。
【実施期間】8月16日(月)～21日(土)
【申し込み先】4月19日(月)～5月14日(金)に所定の申込書に必要事項を記入の上、両校地いずれかの学生支援課へ提出してください。
【問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※4月19日(月)に今出川校地で、20日(火)に京田辺校地で説明会を開催します。

安中キャンプ参加者募集

- これまで実施してきた「熊本キャンプ」に代えて、今回は特別プログラムとして安中を訪れます。安中の新島家旧邸、安中教会など、同志社に縁のある地を2泊3日で訪ねます。
【実施期間】9月8日(水)～10日(金)
【参加費用】2万円(往路交通費を含む)
【説明会】京田辺 5月7日(金)15:00～
キリスト教文化センター集会所(TC 1-111)
今出川 5月21日(金)17:00～
キリスト教文化センターラウンジ(クラーク記念館1階)
【問い合わせ先】
今出川校地キリスト教文化センター TEL:075-251-3320
京田辺校地キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370



障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!

同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)のサポートスタッフを募集しています。初めてでもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録して、パソコン通訳・ノートテイク・ビデオ字幕付け・代筆・対面朗読・車椅子介助などの活動にご協力下さい。詳しくは障がい学生支援室HP(<http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/shogai/>)で随時お知らせしています。謝礼:880円(時間)

【申し込み・問い合わせ先】

京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室 TEL:0774-65-7411
今出川校地学生支援課 障がい学生支援室 TEL:075-251-3273

アッセンブリーアワー学生企画募集

幅広い知識と教養を得られる機会として、各界でご活躍の方々をお招きし、アッセンブリーアワーを設けています。講演会、コンサート、演劇、映画、作品展など多彩なプログラムです。皆さんの知識と熱意によってプロデュースする「アッセンブリーアワー学生企画」を募集します。

【対象】本学学部生 【募集する企画の実施時期】5月～12月

【申し込み先】4月19日(月)～5月14日(金)に、所定の企画書に必要事項を記入の上、両校地いずれかの学生支援課へ提出してください。

【問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※4月19日(月)に今出川校地で、20日(火)に京田辺校地で説明会を開催します。

京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト

「子ども」「大人」「学生」「高齢者」が入り交じる町家「でまち家」で一緒に活動しませんか。世代混合のサークル活動や、議論の場が展開されています。異世代との交流を通して、より豊かな学生生活を送るお手伝いをします。

- 町家でサークル活動をしよう
- いろんな人と井戸端会議をしよう
- 季節行事で京都の四季を感じよう など

【でまち家】

京都市上京区寺町通今出川下ル西側(今出川校地から東へ徒歩7分)

【学生スタッフ募集】

町家プログラムについて、企画・広報・運営に携わる学生スタッフを募集しています。

【問い合わせ先】同志社大学「でまち家」 TEL:075-211-5176

http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/machiya_project/



同志社ローム記念館プロジェクトメンバー募集

同志社ローム記念館プロジェクトは、産官学地域連携による課外の人材育成プログラムです。期間は1年間、多様なメンバーで構成されたプロジェクトチームで協力し合い、目標達成に向けて活動を行います。現在、2010年度のプロジェクトに参加する学生を募集しています。4月26日(月)～5月21日(金)には、プロジェクトメンバーを対象に、適性検査やワークショップなど、プロジェクトに目覚めるための「ウェイクアップ・プログラム」を展開、やる気のある方をサポートします。プロジェクトの情報、メンバー申込票のダウンロードなどは、ローム記念館HP(<http://rohmdrm.doshisha.ac.jp/>)からどうぞ。

【問い合わせ先】

京田辺校地総務課(同志社ローム記念館事務室) TEL:0774-65-7800

新入生歓迎・筍掘り&焚き火の会

キャンパスに群生する筍と竹を使って、竹筒ご飯作りに挑戦します。2年次生以上の参加も大歓迎です。

【日時】4月10日(土)13:30 リザーブ1(紫苑館西隣、恵喜館前広場)集合
※汚れてもよい服装でご参加ください。雨天中止、当日朝10時の時点で判断します。

【申し込み】食材確保のため、事前申し込みにご協力ください(当日参加も歓迎)。

【申し込み・問い合わせ先】

S-cube(京田辺校地学生支援課・嗣業館1F) TEL:0774-65-7021

新入生対象 フレッシューズキャンプ2010参加者募集!

同級生、上級生&教職員スタッフとふれあう1泊2日。

【日程】①4月17日(土)~18日(日) ②4月24日(土)~25日(日)

【定員】各回100人(学部新入生対象) 【参加費】5,700円

【場所】同志社びわこリトリートセンター

【申込期間】①4月5日(月)~13日(火)②4月5日(月)~20日(火)※先着順
3月に郵送されている申込書に記入の上、両校地いずれかの学生支援課へ。
定員になり次第、受付を終了します。

【申し込み・問い合わせ先】

京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7021

今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

新入生歓迎特別講演会 金村義明氏

元プロ野球選手で、現在はプロ野球解説者、タレントとして活躍中の金村義明さんから熱いメッセージをいただきます。

【日時】5月13日(木)13:30~(予定)

【場所】京田辺校地ハローホール(多目的ホール)

【問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7410

今出川校地でも新入生歓迎特別講演会を開催予定です。



FLAT bふらっとプログラム

京田辺校地ハローホール(多目的ホール)では、コンサートや映画上映などの文化プログラムを行います。入場無料。

●4月28日(水) オカリナコンサート「揺-YURA-」 12:30~

●5月18日(火) 映画上映「カールじいさんの空飛ぶ家」

①12:30~/②15:00~/③17:15~

【問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7413



CLOVER THEATER クローバーシアター

開講期間中の火曜日、今出川校地寒梅館のミニシアター・クローバーホール(地階)では、映画史に残る名作を中心にさまざまなイベントを開催します。4月20日から開始。入場無料。

【問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270



WOT(ワット)="What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の木曜日、今出川校地寒梅館ハーディーホールで、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。本学学生・教職員はすべて無料。

<cinema>

●4月15日(木) 新作試写会(時間未定) 要入場整理券

●4月22日(木) 映画『育子からの手紙』監督:村橋明郎
10:30~/13:30~/16:00~/18:30~

●5月20日(木) 映画『未来の食卓』 監督:ジャン=ポール・ジョー
15:50/19:10 レクチャーあり

●5月27日(木) <憲法月間 映画のつどい>詳細未定

【問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は変更になる場合があります。上記以外の木曜日にもイベントを開催予定です。

♪観に行こう聴きに行こう♪—学生団体4月~5月の活動予定—

【京田辺校地ハローホール】(ホール広場前含む)

●4月12日(月) F.B.I「新歓上映会」 12:00~

●4月13日(火) F.B.I「新歓上映会」 12:00~

●4月15日(木) 邦楽部「新歓コンサート」 12:45~

●4月17日(土) F.A.C「新歓ライブ」 11:00~

●4月21日(水) Hocus-Pocus「マジック&ジャグリングショー」 12:30~

●4月24日(土) One Voices「新入生ライブ」 (時間未定)

●5月8日(土) One Voices
「Summer Live 二次オーディションライブ」 (時間未定)

●5月11日(火) 喜劇研究会「お笑いライブ」 13:30~

●5月27日(木) 喜劇研究会「お笑いライブ」 13:30~

●5月29日(土) PENTA「5月ライブ」 12:00~

【京田辺校地同志社ローム記念館】

●4月中 ART-SOZO「4月展」 月~金9:00~20:00、土9:00~17:00

【今出川校地寒梅館ハーディーホール】

●4月7日(水) 同志社交響楽団「新入生歓迎コンサート」 17:30~入場無料

【学外】

●5月29日(土) マンドリンクラブ「第156回定期演奏会」

場所:長岡京記念文化会館 18:30~ 500円

応援に行こう!~体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校、料金などは変更になる場合があります。

【アメリカンフットボール部】

●5月4日(火)定期戦

場所:アミノバイタルフィールド(東京都調布市) 対戦校:立教大学

●5月15日(土)or16日(日) FLASH BOWL SERIES

場所:エキスポフラッシュフィールドor王子スタジアム

対戦校:関西学院大学

【ボクシング部】

●5月9日(日)、16日(日)、23日(日)、30日(日) 13:00~

第64回近畿学生ボクシングリーグ戦 場所:関西大学

対戦校:未定 入場無料

【準硬式野球部】

●4月1日(木)14:00~、2日(金)11:30~

関西六大学準硬式野球春季リーグ戦

場所:豊中ローズ球場 対戦校:大阪大学 入場無料

難関の弁理士試験に現役合格！

くゆくゆくは日本の知財戦略の向上に貢献したい

弁理士は、発明したものや創作した意匠、商標などがすでに登録されていないかを調べ、発明者や創作者に代わって特許庁への出願手続を行うことが主な業務です。弁理士の中には企業の知的財産部に所属し、特許戦略や研究開発に関して法律面でサポートする立場の人もいます。

僕は弁理士資格取得をめざし、毎年1回実施される、短答式の1次、論文式の2次、口述式の3次の国家試験に挑みました。2008年に初めて受験し、1次試験は合格しましたが、2次は残念ながら不合格。1次を通過するとその後2年間は免除されるので、2度目のチャレンジでは2、3次の対策に集中して勉強し、2009年秋に合格することができました。学生でこの資格試験を受験する人はあまり多くなく、社会人で企業の知財部門などを希望する人が多いようです。

大学院では機械工学を専攻し、材料系、特に新しい発泡樹脂材料の研究に取り組んできました。これらの材料が実用化されると、自動車のフロアパネルなどに使って軽量化を図ることができます。弁理士資格の勉強に直接つながる研究ではありませんが、せっかく弁理士の資格を得たので、研究成果を自分で特許出願してみようと考えています。

僕が弁理士をめざしたのは、理工系でいながら法律の勉強がしたいという気持ちがあ

り、専門学校のパンフレットを見たときに弁理士という職業があるのを知ったのがきっかけでした。知名度が低いのであまり知られていませんが、難易度は公認会計士と同じくらいだと言われていています。本格的に勉強しないと合格は難しいので、学部4年次の頃から専門学校へ通うことにしました。

大学院への進学は学部1年のときから決めていたのですが、研究を続けたいという希望に加え、弁理士の勉強に集中できる環境も得ることができました。ただ、研究と資格試験勉強を両立するのは大変で、もし1次試験が免除される今年の受験で駄目だったらあきらめるつもりでした。就職してから勉強を続け合格するのは難しいとわかっていたので、何とか在学中に、と頑張って頑張りました。先生方や家族をはじめ周りの協力があり、集中して勉強できたことに感謝しています。

4月からは自動車部品メーカーに就職します。弁理士の資格を生かすには、企業の知財部がいいのか、それとも特許事務所所属するのがいいのか、今の段階ではまだわかりません。まずは働きながら方向性を考え、最終的には日本の知財戦略の向上に貢献できれば、と考えています。



金南 貴志さん

【工学研究科機械工学専攻
博士課程(前期課程)2年生】

